

書のあゆみ

—BC200年からAD220年までの書のたび—

隸書とその歴史

(隸書の中にも草書が、行書が……)



(西嶽華山廟碑(156年)の原石片。陝西省陰県にあったが、いまはその姿をとどめない)

BC
200年からAD220年までの書のたび

書のあゆみ

— 隸書とその歴史 —

(隸書の中にも草書が、行書が……)

編者 荒金大琳

目 次

第一節 隸書が生態する漢の国の年表(一)	142
第二節 刻字と肉筆	144
第三節 文字の中での空間を学ぶ	144
第四節 開通褒斜道刻石	145
第五節 蔡侯刻石	146
第六節 章草	147
第七節 墓文	148
第八節 石門頌	149
第九節 乙瑛碑	150
第十節 八分の完成品を学ぶ	151
曹全碑	152
張遷碑	153
楊淮表紀	154
隸書について	155
紙の発明と紙になるまでの素材と書体の変化	156
隸書の臨書作品の鑑賞	157
隸書の創作作品の鑑賞	158
	159
	160
	161
	162
	163
	164
	165
	166
	167
	168
	169
	170

隸書の学習について

別府大学教授

荒 金 大 琳

隸書の学習において注意する事は、隸書は漢の時代のものが基本であるから漢碑に表現されている隸意の理解を充分におこなうことが求められます。その上に隸意をどう筆意に結び付け表現出来るようになります。隸意の理解から、次第に色々な隸書の学習へと進展させ、藏鋒を理解することにより、藏鋒をどの様に表現することが出来るかであり、波磔を理解することにより、波磔をどの様に多く表現することが出来るかの学習も求められます。その上に文字の造形やかすれ、文字の空間の処理を考えなければなりません。

始めは木簡の中にある隸意の理解から、次第に色々な隸書の学習へと進展させ、藏鋒を理解することにより、藏鋒をどの様に表現することが出来るかであり、波磔を理解することにより、波磔をどの様に多く表現することが出来るかの学習も求められます。その上に文字の造形やかすれ、文字の空間の処理を考えなければなりません。

書の深い学習を望む時、隸書の学習と鑑賞は不可欠なものであり、学習の努力に期待しています。

西嶽華山廟碑の原石片



(左側から) 西嶽華山廟碑の原石の断面



(右側から) 西嶽華山廟碑の原石の断面

200)

(BC300)

(BC400)

周

東 周

戦 国 时 代

15 21

69 76

43	姬延	42	姬定	41	姬扁	40	姬喜	39	姬驕
	赧王		慎覲		顯王		烈王		安王



(前漢)十五帝
前二〇六年(公元前九九年)

秦

始皇帝

秦王
泰山刻石
○瑯琊刻石

建都: 長安 (西安)
疆域: 全国

亡于新

8	燕王	7	孝王	6	武成王	5	惠王	4	昭王	(3) 燕王	2	燕王	1	易王	建都: (姬族)	燕	豆
	亡于秦									国亡 一年	3				作	(馬)	

21	5	齊王	65	4	襄王	83	84	3	閔王	東帝	1	2	宣王	20	1	威王	359	齊
	亡于秦														作	(馬)		

247	5	莊襄王	251	3	昭襄王	7	2	武王	11	1	惠王	337	秦	趙	建都: 河内鄆鄧
(始皇帝)	(4 孝文王)			西帝											376

22	6	代王	28	5	幽繆王	36	4	悼襄王	45	3	孝成王	66	2	惠文王	99	1	武靈王	325	趙
	亡于秦														疆域: 山西省北部	建都: 河内鄆鄧			

25	6	魏王	28	5	景緝王	43	4	安釐王	77	3	昭王	96	2	襄王	19	(參)	325	370	魏
	亡于秦														疆域: 山西省中部	建都: 河内鄆鄧			

30	5	韓王	39	4	桓惠王	73	3	釐王	96	2	襄王	12	1	威侯	333	韓	375	鄭
	亡于秦														疆域: 河南省南部	建都: 河南新鄭		

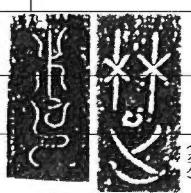
23	24	幽王	38	23	考烈王	64	22	頃襄王	99	21	懷王	29	20	威王	40	19	宣王	70	18	肅王
	亡于秦															334	越 (禹の子孫)	81	18	悼王



※楚簡



馬



楚

漢

前漢(西漢) -215年間-

BC7	BC33	BC49	BC74	BC87	BC141	BC157	BC180	BC188	BC195
13 哀帝 (劉欣) BC1 BC6	12 成帝 (劉驥) BC33	11 元帝 (劉奭) BC33	10 宣帝 (劉詢) BC52	9→ 劉賀 (劉弗陵)	8 昭帝 (劉弗陵)	7 武帝 (劉徹)	6 景帝 (劉啟)	5 文帝 (劉恒)	4→ 後少帝 (劉弘)
BC 2 太 初 初	BC 8 元 永 鴻 陽 河 建	BC 12 永 嘉 始 昭 光 元	BC 16 建 永 嘉 始 昭 光 元	BC 20 初 嘉 朔 平 始 昭 光 元	BC 24 甘 露 鳳 爵 康 節 始 鳳 元	BC 28 五 神 元 地 本 始 鳳 元	BC 32 61 65 69 73	BC 74 75 80 86 88	BC 80 始 征 太 天 太 元 和 始 漢 初 封 鼎 狩 朔 光 元
BC 2 太 初 初	BC 12 永 嘉 始 昭 光 元	BC 16 建 永 嘉 始 昭 光 元	BC 20 初 嘉 朔 平 始 昭 光 元	BC 24 甘 露 鳳 爵 康 節 始 鳳 元	BC 28 五 神 元 地 本 始 鳳 元	BC 32 61 65 69 73	BC 74 75 80 86 88	BC 80 始 征 太 天 太 元 和 始 漢 初 封 鼎 狩 朔 光 元	BC 110 116 122 128 134 140 143
BC 2 太 初 初	BC 8 元 永 鴻 陽 河 建	BC 12 永 嘉 始 昭 光 元	BC 16 建 永 嘉 始 昭 光 元	BC 20 初 嘉 朔 平 始 昭 光 元	BC 24 甘 露 鳳 爵 康 節 始 鳳 元	BC 28 五 神 元 地 本 始 鳳 元	BC 32 61 65 69 73	BC 74 75 80 86 88	BC 110 116 122 128 134 140 143
元 建 緩 壽 平 和	竟 寧	黃 龍	元 平	後 元					

羣臣上齋刻石
(趙二十二年(前一五八年))群臣上齋刻石
(趙廿二年(前一五八年))

秦篆

趙廿二年八月丙寅羣臣上齋此石北

魯孝王刻石 (BC56年)
五鳳二年魯世四年六月四日成

○初元三年簡
(曲阜)
●五鳳元年簡
(曲阜)
●本始六年簡
(武帝陵)

○大始三年簡
(武帝陵)



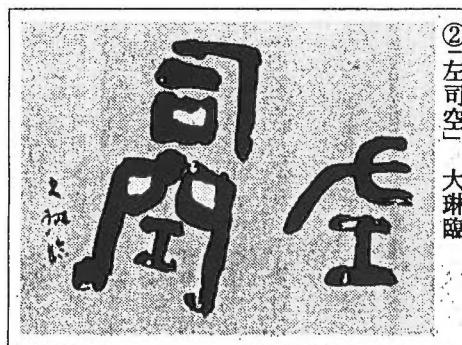
「左司空」武帝陵

「左司空」武帝陵



秦·泰山刻石

第一節 刻字と肉筆 1、刻字「左司空」



現在では書いた文字がコンピューターで再現され、一分の狂いもなくゴム板には文字の形が切り



ルナの日名子由佳ちゃんの作品です

漢の七代目の皇帝・武帝は匈奴（きょうじ）・国境争を続いていると人々の親政策を改め交戦に踏み切ります。強い漢帝国へたのでしょう。病気がちの変身です。しかし、武帝はBC89年、自分の政と人民の経済の立て直し

策の過ちを認め匈奴との

に力を注ぎ、人々の前に刻石では古いものです。

の形はなかなかつかめま

接書き彫り込む方法の他

込まれます。そこに圧縮

漢の武帝の墓「茂陵」に「霍去病（かくぎよ）」と人民の経済の立て直し

立つて自ら田を耕したそ

せんでした。一千年間の

に、「雙鉤填墨（そうく）

した空気圧を加え特殊な

戦争を停止。このまま戦うです。

臨書する時は、墨を少

風雨による摩滅現象も手

うてんぼく・書いた文字

砂を吹き付けて彫つてい

うに滅亡する恐れを感じ
うに滅亡する恐れを感じ
漢の武帝の墓「茂陵」に「霍去病（かくぎよ）」と人民の経済の立て直し

し濃くして羊毛筆を用
い、直筆に筆を立てて藏

になりませんでした。一
團を線でふちどり、その

しかし、機械のない二
千年前にこの「左司空」
の文字が人間の手で彫ら
れている」と驚かされ

時代で異なる刻石の方法

い・武帝の家臣」の墓石と肉筆が乱れてもゆっく
り運筆してください。(1)の
文字があります。漢代の
は私の臨書です。「左」
の形は何とか
特徴がつかめ
ましたが、「左」
と「空」

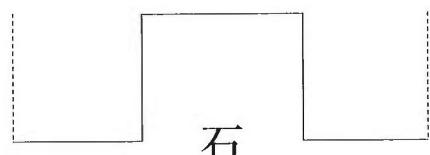
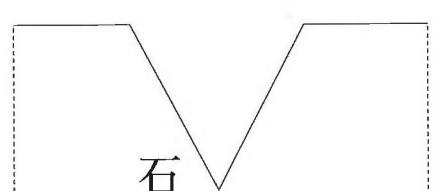
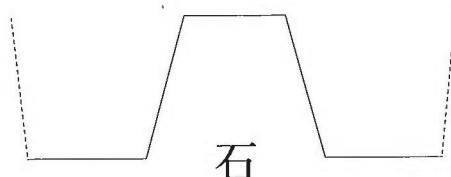
刻石の方法は時代によ
つて異なります。漢代の
石碑は碑面に直接文字を
書いて彫り、唐代では直

最近は石碑の上に薄い
ゴム板を張り、書いた文
字をコピーしてゴムの上
に張り、文字の部分を彫
る時は文字をカッターで
切り取ります。この方法
ではカッターの刃の角度
で文字の形が変わりま

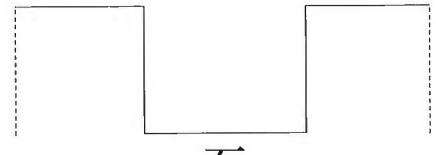
す。

刻み方について

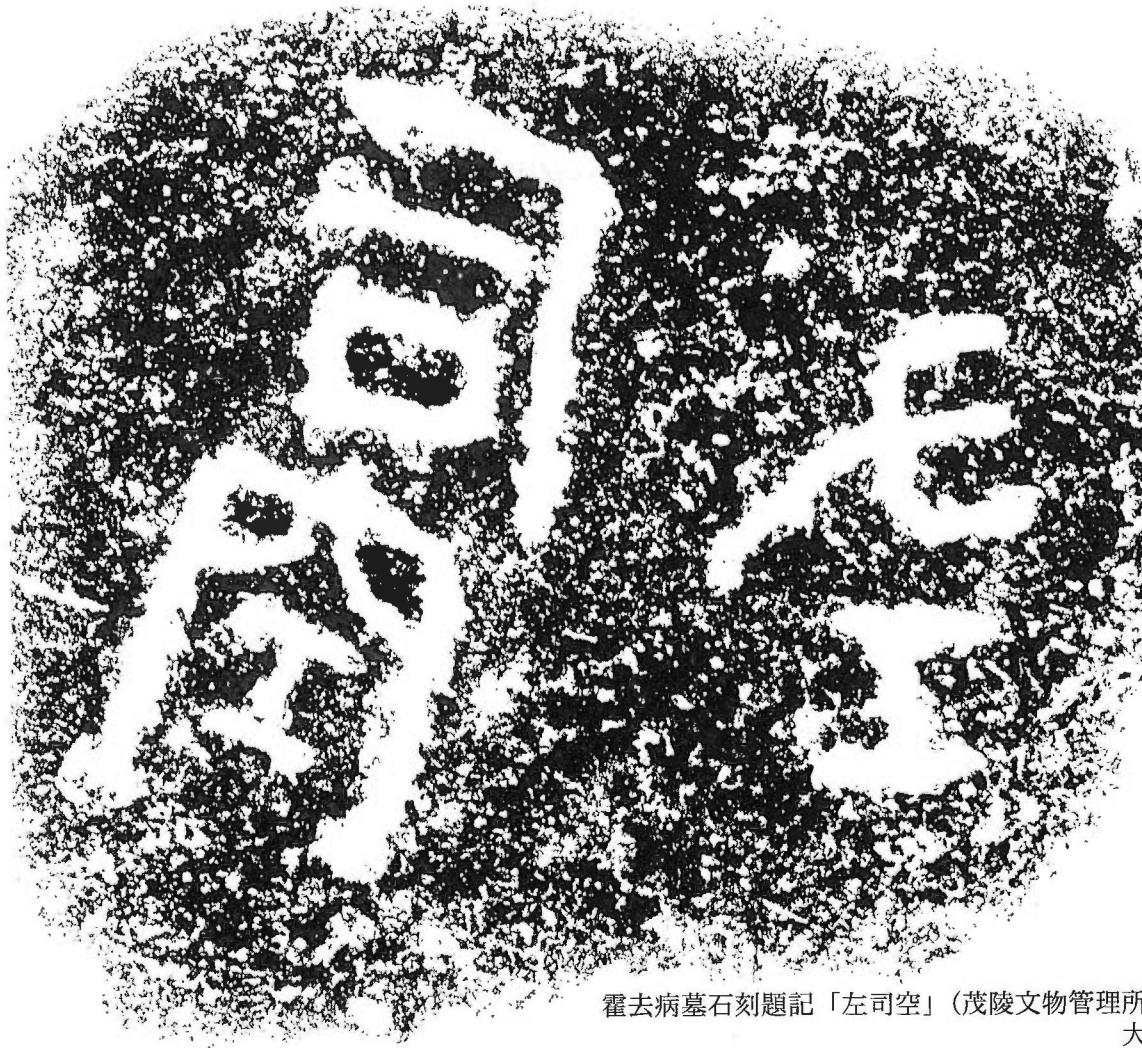
「左司空」はどっちの方法でしようか？



(陽 刻)



(陰 刻)



霍去病墓石刻題記「左司空」(茂陵文物管理所拓)
大琳藏

石刻題記「左司空」 -



「左

〔司〕

